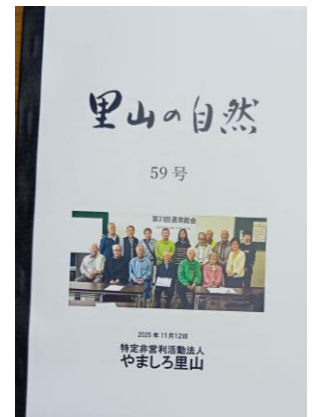


●会誌 59号 完成 11月12日(水)

1時間30分で230冊の製本が完了（太田、金田、森島、播川、有田、山村）できました。今回の会誌59号は講演会報告として4月にお世話になりました京都大学准教授の浅野悟志さんから届きました「やましろ里山の会で学んだこと」の資料(パワーポイント)と、9月6日の森林総研関西支所の小林慧人氏の講演内容の二本を掲載しています。このお二人は里山の会の活動に何回も参加して今日の立場まで到達され、子ども時代の成長に自然と関わった経験をお話しいただきました。また中学生の中沢君と吉村君が調査観察報告に登場して若手の活動ぶりを紹介できました。そして京田辺市文化協会から講演依頼を受けた「京田辺の自然を学ぶ」のパワーポイントと、解説のお話のポイントを付記した原稿を資料に付記することができました。

今回の原稿募集で仲間の広場への投稿が大変少なく編集に苦勞をいたしました。報道機関では物価高問題や近隣諸国との緊張の深まり、アメリカでの大谷選手の活躍など話題に事欠かない出来事がにぎわっていますので、ぜひ一筆思いをお願いいたします。しかし発刊が遅れに遅れましたので12日の事務局会議を短時間で済まして昼飯も抜きで郵送作業を進めていただきました。

**●玉葱苗が届く 11月12日(水)**

大釜さんがお知り合いの方からネギ苗300本を持参いただきました。連絡がありましたので里山農園では大村さん達が畑を耕し、畝を盛り上げ水はけ対策を行い、雑草防止のマルチシートを張付けて、いつでも植え付けが出来るように整えられました。11月18日(火)9時半から植付けを予定しています。可能な方のお手伝いをお願いします。

**●近畿子どもの水辺 雨天の中プログラム変更して実施 11月9日(日)**

大阪府 滋賀県 奈良県 兵庫県 京都府 和歌山県の近畿地方の川などで活動する子どもたちが集まって、日頃観察したこと、気づきを発表してお互いの活動に生かしてゆこうとして約20年を積み重ねてきました。大阪では淀川を、京都では鴨川を、奈良では大和川を、兵庫では猪名川など、滋賀県では琵琶湖を活かして発表会が開かれてきました。今年は京都府が当番で鴨川にかかる北大路橋とその周囲を会場とする晴天時の取組で準備が進みましたが、前日はすごく良い天気でしたが、9日の日曜日は雨天とのことで急遽歴彩館を使つての開催となりました。



188名の子ども達、実行委員の28名、そしてスタッフの30名で246名の取組になりました。午前中は鳴き砂、水検査、投網体験、小型水槽づくりの体験、そして午後は15団体・サークルの活動紹介発表と質疑応答を繰り返し、学び合いました。この取り組みの目的は昨年の取組に



引き続いて「繋ぎ」をキーポイントにして参加者・地域・世代を超え

たつなぎを目的に開催されました。里山の会からは中学生の中沢君と吉村君が里山の蝶の観察調査を中心にお話をしてくれました。終わって参加者たちが2人を囲んで、多くの子どもたちが質問を投げかけてきていました。これまでの取組でこの様な事はなく、かなりの興味と関心を与えたのではないかと感じました。

●熊の出没目撃情報 精華町でとNHK／TVが報道

東北地方や日本各地で連日「熊の出没報道」が繰り返されています。冬眠前に十分栄養を得るための食料である木の実が皆目というほど不作で、人里に近づき柿などの成物と食べ残しに気付いた熊が出没して来ているといわれています。川向こうの木津川市ではかなり前から騒がれてきましたが、近ごろは精華町でも確認したといわれています。私たちの里山農園は山つづきですので、甘い受けとめは少し危険ではないでしょうか。自分事として受け止めなければならないと思います。これまで経験して生き物はイノシシでしたが、クマとなると比較にならない命に係わる被害が予想されますので、必ず複数での行動を今一度互いに守ることをお願いいたします。クマの出没情報は、京都府・市町村共同 統合型地図情報システム[GIS]のホームページで確認ができます。



●同志社大学サッカー部ボランティアの応援が来所計画が具体化進む 12月6・7日、13・14日を検討。

菊地様から親切な提起提案が届きましたので検討するとの返答がありました。提起の内容は12月6日(土)と7日(日)を、そして13日(土)と14日(日)の合計4日をお願いいたしました。それぞれ9時に近鉄興戸駅前集合をお願いしています。ここから現場へ移動することになります。まだ人数は確定していませんので移動するための乗用自動車でのご協力(送迎)を皆さんをお願いいたします。



●昆虫観察会は12月14日に里山農園付近一帯で開催

毎年12月に行っています冬の昆虫観察会は桜谷先生も大変期待され、名古屋から駆けつけてくださることになっています。とくにオオムラサキの成蝶は飛翔が早くスズメぐらいのスピードで天高くとびます。羽の裏は銀色ですから下からは認識が非常にでき難いものです。冬に幼虫はエノキの落葉で越冬しますのでその落葉を点検しますとオオムラサキは角を背中に4対を持っていますので確認ができます。3対の者はゴマダラチョウです。里山農園にはエノキの成木が20本以上ありますので比較的見つけやすい条件があると言えます。打田の炭小屋付近には10本のエノキがあちこちに見られます。4~5年前の台風で樹液を提供してきたコナラやクヌギ等が倒木してしまってオオムラサキの幼虫発見はこうした取り組みでは確認できなかったのですが、オオムラサキの成虫の飛翔が確認され、幼虫も見つけられて、確実に里山農園周囲には生息をしていると実感をしています。ぜひこのチャンスにお出かけくださり確認をお願いいたします。この日は木津川の刈草集草と同時時間の取組と重なりますが、昆虫部会の野村さんと中沢君や吉村君と桜谷先生が同行されますので対応は上手く出来ると思います。参加募集は週刊ニュースでお知らせいたします。まずは予告まで。



ゴマダラチョウの幼虫



オオムラサキの越冬幼虫